

大垣女子短期大学 令和7年度 教育に関する基本方針

学校法人 基本理念	人を育て 地域を創り 未来を拓く
建学の精神	中庸を旨とし 勤労を尊び 職業人としての総合能力を有する 人間性豊かな 人材の養成
教育理念	豊かな人間性を培い、専門的な知識や技能を身につけて、積極的に地域や社会で貢献できる女性の育成
教育方針	1. 一人ひとりの学生を大切にして主体性と自律性を培う教育（学生重視の姿勢） 2. 目標をもってそれぞれの専門的な知識や技能を学べる教育（知識技能の修得） 3. 徳育を重視しながら知育・体育とのバランスのとれた教育（徳・知・体の調和） 4. 自然や社会の環境と生命を大切にしていく感性を磨く教育（環境と生命重視） 5. 地域社会への貢献をとおして自己効力感を体得できる教育（地域貢献の取組） 6. 各学科の特性を互いに生かし合ってつながりをもった教育（学科交流の推進）
学科の 教育目標	【幼児教育学科】 豊かな教養と人間性を備え、幼児教育・保育における専門的な知識と技能を身につけ、これに基づいて社会が必要とする保育者として、教育・保育と子育て支援にあたることのできる人材を育成する。 1. 子どもに深い愛情を持ち、その健やかな成長を見守り、支援できる保育者の育成 2. 社会的な課題への問題意識を持ち、その解決のために努力する保育者の育成 3. コミュニケーション能力を備え、子育て支援のできる保育者の育成 4. 保育現場における実務能力を有し、地域と連携し様々な課題に対応できる実践力のある保育者の育成 【デザイン美術学科】 「美術」の理解と表現指導を通し、思考、感受、行動に反映できる個人を育成する。 1. 基礎表現技能の修得及び基礎理論、美術史概要の理解 2. 個人の能力と特性を見据えた造形表現力の育成 3. 美意識に基づく社会、自然観の養成 4. 美術を通して地域連携、貢献を考えられる女性の育成 【音楽総合学科】 音楽の専門知識と技術を修得し、さらには音楽を通して教養と豊かな人間性を養い、音楽活動を通じて人とコミュニケーションをとることができる人材を養成する。 1. 基礎的な音楽知識の修得、及び専門楽器の技術をもつ人材の育成 2. 音楽に関する学びを通して関連する歴史や自然に対する学びを同様に深め、豊かな教養と人間性を持つ人材の育成 3. 音楽活動や演奏を通じて人と関わり、地域に貢献することができる人材の育成 【歯科衛生学科】 豊かな教養と人間性を備え、口腔保健・医療・福祉の立場から人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識及び技術をもって広く社会貢献し、さらに他医療職種とも連携を取ったチーム医療を実践できる人材を育成する。 1. すべてのライフステージにおける対象者に口腔の健康を支援できるための専門知識、全身に関わる医学的知識及び倫理観を持つ歯科衛生士の育成 2. 対象者の口腔の健康問題に対して、歯科衛生の立場から支援できる歯科衛生士の育成 3. 人間関係形成に必要なコミュニケーション能力を備えた歯科衛生士の育成 4. 地域との連携や地域貢献を推進していく能力を備えた歯科衛生士の育成

全学DP	大垣女子短期大学の卒業認定・学位授与の全学方針（全学ディプロマ・ポリシー）は、次のとおりである。					
	1. [知識・理解] 専門的知識と社会人に求められる教養について理解を深め、必要な知識を確実に身につけることができる。 2. [思考・判断・表現] 社会で活かせる思考力と表現力を身につけ、知識や技能を活用しながら判断して、課題解決に取り組むことができる。 3. [技能] 専門的な技能や技術を確実に修得し、コミュニケーション能力を身につけて、これらを活用することができる。 4. [関心・意欲・態度] 社会や環境への関心を持ち意欲をもって学修活動に取り組めるとともに、徳性の涵養と健康な身体づくりができる。					
学科DP	専門教育				教養教育 (教養科目)	キャリア教育
	幼児教育学科	デザイン美術学科	音楽総合学科	歯科衛生学科		
	大垣女子短期大学の卒業認定・学位授与の全学方針（全学ディプロマ・ポリシー）を前提として、本学所定の単位を修め、次に示すところの成果が得られた学生に卒業を認定し、短期大学士（幼児教育学）の学位を授与する。	大垣女子短期大学の卒業認定・学位授与の全学方針（全学ディプロマ・ポリシー）を前提として、本学所定の単位を修め、次に示すところの成果が得られた学生に卒業を認定し、短期大学士（美術）の学位を授与する。	大垣女子短期大学の卒業認定・学位授与の全学方針（全学ディプロマ・ポリシー）を前提として、本学所定の単位を修め、次に示すところの成果が得られた学生に卒業を認定し、短期大学士（音楽）の学位を授与する。	大垣女子短期大学の卒業認定・学位授与の全学方針（全学ディプロマ・ポリシー）を前提として、本学所定の単位を修め、次に示すところの成果が得られた学生に卒業を認定し、短期大学士（歯科衛生学）の学位を授与する。	教養教育は、関心と意欲を持って主体的に取り組むことで、①専門分野の学びの基盤、②人間の在り方や生き方、③文化や社会と環境、④地域社会での社会人に求められる基本などについて、知識・理解、思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力、必要な技能や技術等を身につけることを目的とする。 共通教養教育の中心となる教養科目では、学科の目的に応じて、次のものを確実に培うことを目標とする。	キャリア教育は、社会的・職業的自立に向けて、その基礎となる①知識や理解、②思考・判断・表現する力、③技能、④意欲や態度などを育て、学生一人一人のキャリア発達を支援することを目的とする。 共通キャリア教育では、学科の目的に応じて、次のものを確実に培うことを目標とする。
	1. [知識・理解] 保育の本質を理解し、保育者として専門的知識に基づき、子ども理解に基づいた援助や適切な環境構成、子育て支援を行うための知識を修得することができる。	1. [知識・理解] 美術における理論と制作を通し、美術に対する知識と理解を有することができる。	1. [知識・理解] 音楽の基礎的な理論や曲の生まれた背景を理解し、人に音楽を伝えるための知識を修得することができる。	1. [知識・理解] 全身の観点から口腔の健康支援ができるための専門的知識や医療人として社会に貢献していくための知識を修得することができる。	1. [知識・理解] 専門分野を学ぶ基盤となる知識及び社会人に共通して求められる社会変化への対応と地域に貢献していくための基本的知識についての理解。	1. [知識・理解] 職業や就労についての基本的事項、キャリアに関連する社会の仕組み、社会人に必要な基礎的事項等に関する知識やその理解。
	2. [思考・判断・表現] 保育の本質を基盤に、時代のニーズに柔軟に対応した保育実践及び改善を行うことができ、外部の資源を有効に活用することができる。	2. [思考・判断・表現] 制作において考え、選択し、表現することを、自己の制作の中で展開し、表現することができる。	2. [思考・判断・表現] 音楽演奏や教育を行うにあたって必要な理論を適切に判断し、相手の理解に応じて伝えることができる。	2. [思考・判断・表現] 歯科衛生士として人々の健康問題の解決に向けて、生物・心理・社会的な観点から論理的に考え判断ができ、さらに適切な説明ができる。	2. [思考・判断・表現] 人間の在り方や生き方、文化や社会、環境などの理解に必要で、専門分野を学ぶための基本ともなる思考力や判断力、表現力。	2. [思考・判断・表現] 社会的・職業的な自立に向けた将来の構想、自己のキャリアについての適性と能力の認識、進路選択のための課題解決等に関する基本的な思考力・判断力・表現力。
	3. [技能] 保育実践に必要な保育技術や情報収集能力	3. [技能] 美術表現上、必要な技法を修得する。研究	3. [技能] 音楽の専門家としての情報収集能力と技	3. [技能] 歯科衛生士としての基本的な操作的技術	3. [技能] 専門分野を学ぶ基盤となる学問的な技能	3. [技能] 専門的知識や技術の社会的な活用、キャ

	をもち、子どもとの関係を構築し、職員と協働するとともに、地域や保護者と連携できるコミュニケーション能力がある。	し、継続した結果、自己表現につなげることができる。そして、その表現を人に伝えるコミュニケーション能力がある。	術をもち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。	能力やプレゼンテーションする力がある。他職種と協働・連携するチーム医療が理解でき、患者や地域社会とも関わるコミュニケーション能力がある。	や知的技法及び社会人に必要なコミュニケーション能力や社会生活の基本となる技能。	リアの修得や進路選択のために必要な計画の立案、協働の基礎となる集団におけるマナーやコミュニケーション等に関する基本的な技能。
	4. [関心・意欲・態度] 豊かな教養と人間性、社会人基礎力を備え、常に資質能力の向上を図り、地域や保護者と連携し様々な課題に対応していこうとすることができる。	4. [関心・意欲・態度] 美的なものに興味を持ち、多様なものを吸収し、選択する。また、真摯な態度で物事に当たり意欲的に研究し、表現に繋げることができる。そして人との関わりの中、地域との連携、貢献を推進していくことができる。	4. [関心・意欲・態度] 常に自己資質の向上をめざし、積極的に音楽を通じて人と関わり、地域との連携、音楽文化の向上に向けた社会貢献を推進していくことができる。	4. [関心・意欲・態度] 医療人としての自己管理ができ、将来に向けての職業的使命感を持ち、自らが関心と意欲を持って地域との連携や社会貢献を推進していくことができる。	4. [関心・意欲・態度] 教養について学ぶことを将来の社会的役割と結びつけてとらえ、学修への関心と意欲を持って、主体的に取り組んでいこうとする態度。	4. [関心・意欲・態度] 社会の中で役割を果たしていくこと、キャリアを基本とした自己認識と将来設計、社会人に必要な行動様式を身につけていくこと等に関する望ましい関心・意欲・態度。

全学 AP	大垣女子短期大学の入学者受入れの全学方針（全学アドミッション・ポリシー）は、次の内容を身につけ、本学の教育理念にそって学修に努力して取り組んでいこうとする人とする。			
	1. [知識・理解] 学びに必要となる基礎的・基本的な知識や概念 2. [思考・判断・表現] 学びにおける課題解決に必要となる基礎的な思考力・判断力・表現力 3. [技能] 学びに必要となる基礎的・基本的な技能 4. [関心・意欲・態度] 学びの内容に関心を持ち、主体的かつ協働的に取り組もうとする態度			
学科 AP	幼児教育学科	デザイン美術学科	音楽総合学科	歯科衛生学科
	1. [知識・理解] 保育者となるために必要となる基礎的な学力を有する。 2. [思考・判断・表現] 保育に関する専門性を高められるように、課題解決に必要な基礎的な思考力・判断力・表現力を将来にわたって培うことができる。 3. [技能] 保育者になるための基本的なコミュニケーション能力と協調性をもち、専門的な技能を修得できるように努力ができる。 4. [関心・意欲・態度] 子どもへの深い愛情をもち、社会の動向に関心を寄せ、様々な課題に対応でき、社会的貢献への意欲をもっている。	1. [知識・理解] 美術に関する基礎的な知識を有し、美術的表現を理解する努力ができる。 2. [思考・判断・表現] 美術的表現に関わる基礎的な思考力・判断力を有し、自己を表現する努力ができる。 3. [技能] 美術表現における基本的な物を見つめる力、描く力、造る力を有し、自己表現を伝えるコミュニケーション能力を持つ努力ができる。 4. [関心・意欲・態度] 美術に関心を持ち、個としての表現を高め、また、コミュニケーション能力を持ち、地域、社会と協調性を有する努力ができる。	1. [知識・理解] 音楽の学びに必要となる基礎的な学力を有する。 2. [思考・判断・表現] 音楽人として課題解決に必要な基礎的な思考力・判断力・表現力を将来にわたって培うことができる。 3. [技能] 音楽人となるための基本的なコミュニケーション能力と協調性を持ち、専門的な技能を修得できるように努力ができる。 4. [関心・意欲・態度] 音楽全般に幅広く関心を持って主体的に取り組み、音楽を通じて社会的貢献をする意欲を持っている。	1. [知識・理解] 医療人になるために必要となる基礎的な学力を有する。 2. [思考・判断・表現] 歯科衛生士として課題解決に必要な基礎的な思考力・判断力・表現力を将来にわたって培うことができる。 3. [技能] 歯科衛生士になるための基本的なコミュニケーション能力と協調性を持ち、専門的な技能を修得できるように努力ができる。 4. [関心・意欲・態度] 保健・医療・福祉の分野に関心があり、社会的貢献をする意欲を持っている。

全学CP	大垣女子短期大学の教育課程・実施の全学方針（全学カリキュラム・ポリシー）は、建学の精神及び教育理念に基づく卒業認定・学位授与の全学方針（全学ディプロマ・ポリシー）に示す人材を確実に育成していくため、教育方針をもとに以下により教育課程を編成する。					
	1. 学生が幅広い視野をもって学科目的に沿った主体的な学びが行えるよう、その基盤づくりとして教養教育とともにキャリア教育も含む総合的な内容からなる教養科目を開講し、適切な選択や受講ができるようにする。					
	2. 学生が専門的な知識と技能を体系的に学べるよう、各学科に専門に関する科目を基礎から応用までの学修段階に配慮した順序と内容で開講し、教養とともに専門分野に係る「知識・理解」「思考・判断・表現」「技能」「関心・意欲・態度」の伸長と定着を目指せるようにする。					
	3. 学生が教養科目と専門に関する科目を学修するにあたっては、主体的な学びを目指す学修活動を中心に、科目の特性に応じて、地域社会と結びついた実践的な活動、環境を重視し、社会性と協調性、その基盤となる自律性と品性などを身につけていく活動に取り組んでいけるようにし、これに配慮して各科目を配列する。					
	4. 学生が科目を受講するにあたっては、各科目の目標とDPとのつながりを示したカリキュラム・マップと、教育課程における各科目の関連や順序を示したカリキュラム・ツリーを活用して、教育課程とその内容等を確実に理解しながら学修に臨めるようにする。					
学科CP	専門教育				教養教育 (教養科目)	キャリア教育
	幼児教育学科	デザイン美術学科	音楽総合学科	歯科衛生学科		
	豊かな教養と人間性を備え、子どもへの深い愛情を育むとともに教育・保育における専門的な知識と技能を身につけ、これらと実習や保育実務研修との往還で、よりいっそう社会が必要とする保育者として、教育・保育と子育て支援に携わることのできる人材の育成を目的とし、教育課程を編成する。	生涯にわたる素養として「美術」を感じ、更に自らを表現できる技能を定着させたい。その目標の下、美術の全体像を見失うことなく、基礎から応用発展へと繋がる科目及び科目群相互の連携を意図し、教育課程を編成する。	音楽の専門知識と技術を修得し、さらには音楽を通しての豊かな教養と人間性を養い、音楽活動を通じて人とコミュニケーションをとることができる人材を育成するために、次のような教育課程を編成する。	豊かな教養と人間性を備え、口腔保健・医療・福祉の立場から人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識及び技術をもって広く社会貢献し、さらに他医療職種とも連携を取ったチーム医療を実践できる人材を育成するため、次のような教育課程を編成する。	全学科に共通する教養教育の中心として教養科目を開講する。教養科目を「教養基礎」と「社会人基礎」の2つに分類し、学生による適切な選択ならびに履修により、めざす力等の確実な定着や涵養に向けた学びのカリキュラムを次のとおり編成する。	教養教育や専門教育の学修を通じて、又は連動性を図りながら、幅広く社会の仕組みを理解し、働くことに対する意識の醸成を図り、社会人として身につけるべき基礎的、汎用的な能力を育成するためのカリキュラムを次のとおり編成する。
	1. 豊かな人間性、コミュニケーション能力、社会性を育むための教養教育を実施する。	1. 豊かな人間性、コミュニケーション能力、社会性を育むための教養教育を実施する。	1. 豊かな人間性、コミュニケーション能力、社会性を育むための教養教育を実施する。	1. 豊かな人間性、コミュニケーション能力、社会性を育むための教養教育を実施する。	1. 「教養基礎」をさらに「人文」「社会」「自然」「総合」の4つに区分し、主に専門分野の学びの基盤、人間の在り方や生き方、文化や社会と環境についての学びを中心に必要な科目を開講する。	1. キャリア意識の醸成の観点から、「働くこと」に対する気づきを啓発するため、「自己理解」「他者理解」「職業観の醸成」を体系的に配置し、人間関係の形成、社会形成能力を醸成する。
	2. 子どもの健やかな成長、幸せのために、子ども理解を基に援助できる能力や、子育て支援に係わる能力を育成する専門教育を実施する。	2. 1年次前期に基礎領域全般を学び、理論と実技を通して関心と理解を深める。	2. 音楽を通して人間的な成長と専門的な知識と技術を学ぶための基礎教育と専門教育を実施する。	2. すべてのライフステージにおける対象者の口腔の健康支援ができる基礎教育と専門教育を実施する。	2. 「社会人基礎」では主に地域社会で活躍する社会人に求められる基本及び教養教育全体の基礎についての学びを中心に必要な科目を開講する。	2. キャリア形成の観点から、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力等を育成する体系的なキャリア教育カリキュラムを配置し、キャリアプランニング能力と課題対応能力を醸成する。

	3. 実習や保育実務研修、子育てサロンへの参画など実践現場での学びと、関連する大学での学びとの往還によって、保育実践で求められる実務能力や社会人基礎力など保育力が身につく教育を実施する。 4. 保育のスペシャリストとして、社会の諸問題を解決するための知識・技能・思考力や、自らの持つ能力を伸ばすことのできる専修科目を設ける。	3. 描写系科目を造形表現の基本とし、関連科目を充実させ自己の表現力と技術力を向上させる。 4. 学生はどの授業でも受講でき、多様性のある豊かな受講計画が考えられる。 5. 手を動かす、手で作る、手で描くことを基本とするも、コンピューター使用における表現性、世界観を重視し、どの授業も学生は受講でき、それぞれの「美術」を考えられる。 6. 各科目担当者は学生との対話に努め、能力に応じた個別指導を行い、学生一人ひとりの成長を支援する。また社会との関わり大切さ、必要性を考え、地域との連携を行う。	3. 地域社会の音楽文化の向上に貢献し、地域で求められる活動を学び推進させるために充実した学外演奏や学外ボランティア活動、実習を実施する。 4. 各コース担当者は授業時間内外で学生との対話に努め、能力に応じた指導を行い、個々の成長を支援する。 5. 学生は自ら専攻するコース以外でも選択可能な他コースの授業を受講することができ、広い知識を身につけることができる。 6. 音楽関係、心理関係の資格取得を支援する教育を実施する。	3. チーム歯科医療の一員として患者のニーズに応え信頼される医療人となるため、全身状態の理解・把握を目指した臨床医学教育を実施する。 4. 専門化する歯科医療に対応し、さらに地域との連携や地域貢献を推進していく能力を身につけるため、育成専修クラスを含めた臨床・臨地実習等を実施する。 5. 歯科衛生士の国家資格取得を支援するための教育を実施する。	3. これらの分類及び区分を活用し、適切な選択と履修で総合的な教養の涵養が図れるように指導と支援を行う。	3. 学生一人ひとりの発達状況の的確な把握ときめ細かな支援のために、気づきを促し、意欲・態度を育む「勤労観・職業観」、スキルを身につけ能力・態度を育む「基礎的・汎用的能力」を醸成するキャリア教育に関する科目を他の教養科目、専門科目との連動性が図れるように配置する。
--	--	---	--	--	---	---

到達指標	専門教育				教養教育 (教養科目)	キャリア教育
	幼児教育学科	デザイン美術学科	音楽総合学科	歯科衛生学科		
	1. [知識・理解] 保育の本質を理解し、保育者として専門的知識に基づき、子ども理解に基づいた援助や適切な環境構成、子育て支援を行うための知識を修得することができる。 (1) 遊びを通した主体的・対話的で深い学びについて理解することができる。 (2) 子どもの資質・能力を育むための、発達段階や環境を通した保育について理解することができる。 (3) 子どもの生きる力の基礎を培うための、環境構成や援助の在り方について必要な知識を身につけることができる。	1. [知識・理解] 美術における理論と制作を通し、美術に対する知識と理解を有することができる。 (1) 美術・デザイン分野を学ぶ基盤となる知識を有することができる。 (2) 美術・デザイン分野を学ぶ基盤となる知識への理解を深めることができる。 (3) 美術的表現の理論を修得し、応用させることができる。	1. [知識・理解] 音楽の基礎的な理論や曲の生まれた背景を理解し、人に音楽を伝えるための知識を修得することができる。 (1) ピアノコース・電子オルガンコース：幅広い音楽的知識を身につけ、音楽への理解を深めることができる。 (2) ウインドアンサンブルコース：楽曲の背景や、基礎理論を学ぶことで、演奏に必要な知識を修得する。 (3) 管打楽器リペアコース：管楽器の構造、仕組みなど基本的な知識を修得し技術に応用することができる。 (4) 音楽療法コース：対象者の年代に合った曲を提供できその時代背景についての知識を修得する。	1. [知識・理解] 全身の観点から口腔の健康支援ができるための専門的な知識や医療人として社会に貢献していくための知識を修得することができる。 (1) 全身と口腔の健康の関連を医学的に説明できる。 (2) 口腔疾患を予防し、口腔保健を向上させるために必要となる基本的な知識を身につけることができる。 (3) 歯科衛生士としての専門性に繋がる教養の基本的知識を修得し、応用ができる。	1. [知識・理解] 専門分野を学ぶ基盤となる知識及び社会人に共通して求められる社会変化への対応と地域に貢献していくための基本的知識についての理解。 (1) 専門分野を学ぶ基盤となる内容の理解を深め、知識を身につけることができる。 (2) 社会人に求められる社会変化への対応や地域への貢献などに必要な内容の理解を深め、知識を身につけることができる。	1. [知識・理解] 職業や就労についての基本的事項、キャリアに関連する社会の仕組み、社会に必要な基礎的事項等に関する知識やその理解。 (1) 職業や就労に関する基本的事項についての理解を深め、知識を身につけることができる。 (2) キャリアに関連する社会の仕組み、社会に必要な基礎的な内容の理解を深め、知識を身につけることができる。
	2. [思考・判断・表現] 保育の本質を基盤に、時代のニーズに柔軟に対応した保育実践及び改善を行うことができ、外部の資源を有効に活用することができる。 (1) 教育・福祉の専門分野を学ぶための基本となる総合的な思考力や判断力、表現力の基礎を培うことができる。 (2) 子どもの行為の意味に気づき、それらを分析・判断し実践に活かそうとする	2. [思考・判断・表現] 制作において考え、選択し、表現することを、自己の制作の中で展開し、表現することができる。 (1) 美術的表現の必要性を総合的に考えることができる。 (2) 美術的表現での、要・不要や是非を判断できる。 (3) 制作実践において、意義ある美的表現ができる。	2. [思考・判断・表現] 音楽演奏や教育を行うにあたって必要な理論を適切に判断し、相手の理解に応じて伝え、必要に応じて教えることができる。 (1) ピアノコース・電子オルガンコース：音楽的素養をもとに思考・判断・想像力をもって表現することができる。 (2) ウインドアンサンブルコース：聞く人に応じた選曲や、レッスン対象に	2. [思考・判断・表現] 歯科衛生士として人々の健康問題の解決に向けて、生物・心理・社会的な観点から論理的に考え判断ができ、さらに適切な説明ができる。 (1) 歯科保健・医療・福祉の専門分野を学ぶための基本となる総合的な思考力や判断力、表現力の基礎を培うことができる。 (2) 人々の健康に関する実際の問題の解決に向けて、科学的な根拠に基づ	2. [思考・判断・表現] 人間の在り方や生き方、文化や社会、環境などの理解に必要で、専門分野を学ぶための基本ともなる思考力や判断力、表現力。 (1) 人間や文化、社会などに関して現実の課題等に結びつけて考え、適切に判断してこれを表現することの基礎を培うことができる。 (2) 専門分野を学ぶための基盤となる総合的な思考力	2. [思考・判断・表現] 社会的・職業的な自立に向けた将来の構想、自己のキャリアについての適性と能力の認識、進路選択のための課題解決等に関する基本的な思考力・判断力・表現力。 (1) 社会的、職業的な自立に向けた将来の構想、自己のキャリアについての適性を見定めたり、必要な能力を認識するなどの思考力、判断力の基礎を培うことができる。

ことができる。 (3) 時代の変化や様々な価値観、地域の特性に対応できる柔軟性を身につけ、現状に合わせて改善し、外部の資源を効果的に活用しようとするができる。	3. [技能] 保育実践に必要な保育技術や情報収集能力をもち、子どもとの関係を構築し、職員と協働するとともに、地域や保護者と連携できるコミュニケーション能力がある。 (1) 子ども理解の理論及び方法や、援助するために必要となる多様な保育技術を身につけることができる。 (2) 一人ひとりの子ども理解に応じた援助や環境構成ができる。 (3) 保育実践や社会生活で必要なコミュニケーション能力を身につけ、職員や保護者などと柔軟に関わり連携することができる。	3. [技能] 音楽の専門家としての情報収集能力と技術をもち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。 (1) ピアノコース・電子オルガンコース：音楽活動に必要な専門的技術・コミュニケーション能力を身につけることができる。 (2) ウインドアンサンブルコース：演奏者として必要な情報収集能力やコミュニケーション能力を身につけ、円滑な人間関係を築くことができる。 (3) 管打楽器リペアコース：不良箇所を診断し修繕することができる。 (4) 音楽療法コース：治療目的に沿った実践に関連職種と連携して行い記録することができる。	いて論理的に考えることができる。 (3) 歯科医療場面での正しい判断を、医療倫理の観点から検討することができる。	や判断力、表現力の基礎を培うことができる。	(2) 将来の進路選択のための課題解決等に関する総合的な思考力や判断力、表現力の基礎を培うことができる。
3. [技能] 保育実践に必要な保育技術や情報収集能力をもち、子どもとの関係を構築し、職員と協働するとともに、地域や保護者と連携できるコミュニケーション能力がある。 (1) 子ども理解の理論及び方法や、援助するために必要となる多様な保育技術を身につけることができる。 (2) 一人ひとりの子ども理解に応じた援助や環境構成ができる。 (3) 保育実践や社会生活で必要なコミュニケーション能力を身につけ、職員や保護者などと柔軟に関わり連携することができる。	3. [技能] 美術表現上、必要な技法を修得する。研究し、継続した結果、自己表現につなげることができる。そして、その表現を人に伝えるコミュニケーション能力がある。 (1) 美術表現上、必要な技法を修得することができる。 (2) 継続的に研究をし、視覚表現の提案ができる。 (3) クリエイターとして必要なコミュニケーション能力を修得できる。	3. [技能] 音楽の専門家としての情報収集能力と技術をもち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。 (1) ピアノコース・電子オルガンコース：音楽活動に必要な専門的技術・コミュニケーション能力を身につけることができる。 (2) ウインドアンサンブルコース：演奏者として必要な情報収集能力やコミュニケーション能力を身につけ、円滑な人間関係を築くことができる。 (3) 管打楽器リペアコース：不良箇所を診断し修繕することができる。 (4) 音楽療法コース：治療目的に沿った実践に関連職種と連携して行い記録することができる。	3. [技能] 歯科衛生士としての基本的な操作的技術能力やプレゼンテーションする力があり、他職種と協働・連携するチーム医療が理解でき、患者や地域社会とも関わるコミュニケーション能力がある。 (1) 口腔の健康やリスクを評価し指導計画を立て、対象者に説明できる。 (2) 口腔疾患の予防のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導が実施できる。 (3) 歯科医療におけるチームワークの重要性を理解し、他の医療従事者との連携ができる。また、地域歯科保健の維持・向上のため、地域住民の視点に立ちコミュニケーションがとれる。	3. [技能] 専門分野を学ぶ基盤となる学問的な技能や知的技法及び社会人に必要なコミュニケーション能力や社会生活の基本となる技能。 (1) 専門分野を学ぶための基盤となる共通の学問的な技能や技術を身につけることができる。 (2) 社会人に必要なコミュニケーション能力や社会生活の基本となる技能について、その基礎を身につけることができる。	3. [技能] 専門的知識や技術の社会的な活用、キャリアの修得や進路選択のために必要な計画の立案、協働の基礎となる集団におけるマナーやコミュニケーション等に関する基本的な技能。 (1) 社会において活用できる専門的な知識や技術などの基礎的な技能を身につけることができる。 (2) キャリアの修得や進路選択のために必要な計画の立案に取り組むことができる。 (3) 協働の基礎となる集団におけるマナーやコミュニケーション等に関する基礎的な技能を身につけることができる。
4. [関心・意欲・態度] 豊かな教養と人間性、社会人基礎力を備え、常に資質能力の向上を図り、地域や保護者と連携し様々な課題に対応していこうとすることができる。 (1) 豊かな感性と教養を養い、理想の保育者像を描き、常に研鑽に努めることができる。	4. [関心・意欲・態度] 美的なものに興味を持ち、多様なものを吸収し、選択する。また、真摯な態度で物事に当たり意欲的に研究し、表現に繋げることができる。そして人との関わりの中、地域との連携、貢献を推進していくことができる。 (1) 美的なものに興味や関	4. [関心・意欲・態度] 常に自己資質の向上をめざし、積極的に音楽を通じて人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。 (1) ピアノコース・電子オルガンコース：自己の感性と人間性を養い、音楽と人や生活、社会とのつながりに関心を持って意欲	4. [関心・意欲・態度] 医療人としての自己管理ができ、将来に向けての職業的使命感を持ち、自らが関心と意欲を持って地域との連携や社会貢献を推進していくことができる。 (1) 人々の口腔の健康を守ることで、人の心と体を守ることに寄与する歯科	4. [関心・意欲・態度] 教養について学ぶことを将来の社会的役割と結びつけてとらえ、学修への関心と意欲を持って、主体的に取り組んでいこうとする態度。 (1) 学修内容に興味や関心を持ち、見通しをもって主体的、意欲的に取り組むことができる。	4. [関心・意欲・態度] 社会の中で役割を果たしていくこと、キャリアを基本とした自己認識と将来設計、社会人に必要な行動様式を身につけていくこと等に関する望ましい関心・意欲・態度。 (1) 社会の中で自己の役割を果たすことに興味や関

	(2) 社会事象や課題、子どもを取り巻く環境などに関心をもち、実践を常に振り返り、子どもの最善の利益のために新たな方法や手だてを行おうとすることができる。 (3) 社会に貢献する使命感と責任感をもって、様々な課題に対応するため地域と連携し、積極的に行動することができる。	心を持ち続けることができる。 (2) 真摯な気持ちで美術・デザイン分野の研究に、主体的・意欲的に取り組むことができる。 (3) 社会貢献する気持ちを持ち、地域と連携し積極的に行動することができる。	的に取り組むことができる。 (2) ウインドアンサンブルコース：地域の音楽文化発展に寄与する自覚を持ち、専攻楽器の演奏技術を真摯に錬磨することができる。 (3) 管打楽器リペアコース：様々な楽器に興味を持ち技術向上に努めることができる。 (4) 音楽療法コース：常に学び続ける姿勢を持ち地域福祉に貢献する意欲を持つことができる。	衛生士の職責への十分な自覚を持ち、医療人としての自己管理のもとに対象者本位の立場で対応ができる。 (2) 歯科医療において自ら問題点を探し出し、関心と意欲をもって解決するための能力を培うことができる。 (3) 地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感を持って積極的に行動できる。	(2) 地域などの社会に関心をもち、専門分野での学びとともに学んだことを将来役立てていこうと考えながら取り組むことができる。	心を持ち、見通しをもって主体的、意欲的に取り組むことができる。 (2) キャリアを基本とした自己認識と将来設計に関心をもち、自己の将来の姿を描くことに取り組むことができる。 (3) 地域社会に関心をもち、社会人として必要な行動様式を身につけていこうと考えながら取り組むことができる。
--	---	---	--	--	---	--

【幼児教育学科 ルーブリック】

観点	幼児教育学科の到達指標	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
知識・理解	遊びを通した主体的・対話的で深い学びについて理解することができる。	遊びを通した主体的・対話的で深い学びについて理解が深まり、十分な知識を身につけて、説明が確実にできる。	遊びを通した主体的・対話的で深い学びについて理解がだいたい深まり、知識をほぼ身につけて、おおよその説明ができる。	遊びを通した主体的・対話的で深い学びについて理解があまり深まらず、知識にやや不十分さがあり、説明があまりできない。	遊びを通した主体的・対話的で深い学びについて理解がほとんど深まらず、知識が不十分であり、説明がほとんどできない。
	子どもの資質・能力を育むための、発達段階や環境を通した保育について理解することができる。	子どもの資質・能力を育むための、発達段階や環境を通した保育について理解が深まり、十分な知識を身につけ、説明が確実にできる。	子どもの資質・能力を育むための、発達段階や環境を通した保育について理解がだいたい深まり、知識をほぼ身につけ、おおよその説明ができる。	子どもの資質・能力を育むための、発達段階や環境を通した保育について理解があまり深まらず、知識にやや不十分さがあり、説明があまりできない。	子どもの資質・能力を育むための、発達段階や環境を通した保育について理解がほとんど深まらず、知識が不十分であり、説明がほとんどできない。
	子どもの生きる力の基礎を培うための、環境構成や援助の在り方について必要な知識を身につけることができる。	子どもの生きる力の基礎を培うための、環境構成や援助の在り方について必要な知識を十分に修得し、応用が確実にできる。	子どもの生きる力の基礎を培うための、環境構成や援助の在り方について必要な知識をほぼ修得し、おおよその応用ができる。	子どもの生きる力の基礎を培うための、環境構成や援助の在り方について必要な知識にやや不十分さがあり、応用があまりできない。	子どもの生きる力の基礎を培うための、環境構成や援助の在り方について必要な知識が不十分であり、応用がほとんどできない。
思考・判断・表現	教育・福祉の専門分野を学ぶための基本となる総合的な思考力や判断力、表現力の基礎を培うことができる。	教育・福祉の専門分野を学ぶための基本となることについて総合的にしっかり考え、適切な判断や表現をすることができる。	教育・福祉の専門分野を学ぶための基本となることについて総合的に考え、一定の判断や表現をすることができる。	教育・福祉の専門分野を学ぶための基本となることについて考えることはできるが、判断や表現はあまりできない。	教育・福祉の専門分野を学ぶための基本となることについてあまり考えられず、判断や表現はほとんどできない。
	子どもの行為の意味に気づき、それらを分析・判断し実践に活かそうとすることができる。	園生活において子どもの行為の意味に気づき、それらを分析・判断し実践に活かそうとすることができる。	園生活において子どもの行為の意味に気づき、それらを分析・判断し実践にある程度活かそうとすることができる。	園生活において子どもの行為の意味に気づくことはできるが、それらを分析・判断し実践に活かそうとすることができない。	園生活において子どもの行為の意味に気付くことができず、保育者からの一方的な保育実践になりがちである。
	時代の変化や様々な価値観、地域の特性に対応できる柔軟性を身につけ、現状に合わせて改善し、外部の資源を効果的に活用しようとすることができる。	時代や社会の変化や多様な考えに柔軟に対応し、自らの実践を改善し、外部の資源を活用しようとすることができる。	時代や社会の変化や多様な考えに柔軟に対応し、自らの実践を改善し、外部の資源をある程度活用しようとすることができる。	時代や社会の変化や多様な考えに柔軟に対応することは難しいが、自らの実践を改善しようとすることができる。	時代や社会の変化や多様な考えに柔軟に対応することが難しく、自らの実践について改善することができない。
技能	子ども理解の理論及び方法や、援助するために必要となる多様な保育技術を身につけることができる。	保育現場で求められる子ども理解の理論及び方法や、援助するために必要となる多様な保育技術を十分に身につけることができる。	保育現場で求められる子ども理解の理論及び方法や、援助するために必要となる多様な保育技術がある程度身につけることができる。	子ども理解の理論及び方法や、援助するために必要となる多様な保育技術がある程度身につけているが、保育現場で求められるまでには至っていない。	子ども理解の理論及び方法や、援助するために必要となる多様な保育技術をほとんど身につけていない。
	一人ひとりの子ども理解に応じた援助や環境構成ができる。	一人ひとりの子ども理解に応じた援助や環境構成が保育現場において実践できる能力がある。	一人ひとりの子ども理解に応じた援助や環境構成が保育現場において実践できる能力がある程度ある。	一人ひとりの子ども理解に応じた援助や環境構成が保育現場において実践できる能力があまりない。	一人ひとりの子ども理解ができず、援助や環境構成が保育現場において実践できる能力がない。
	保育実践や社会生活で必要なコミュニケーション能力を身につけ、職員や保護者などと柔軟に関わり連携することができる。	保育実践や社会生活で必要なコミュニケーション能力を十分身につけ、職員や保護者などと柔軟に関わり連携することができる能力をもっている。	保育実践や社会生活で必要なコミュニケーション能力を身につけ、職員や保護者などと柔軟に関わり連携する能力がある程度もっている。	保育実践や社会生活で必要なコミュニケーション能力をある程度身につけているが、職員や保護者などと柔軟に関わり連携する能力が不十分である。	保育実践や社会生活で必要なコミュニケーション能力がなく、職員や保護者などと柔軟に関わり連携できる能力には至っていない。
関心・意欲・態度	豊かな感性と教養を養い、理想の保育者像を描き、常に研鑽に努めることができる。	大学生生活において、主体的に豊かな感性と教養を養い、理想の保育者像を描き、常に研鑽に努めることができる。	大学生生活において豊かな感性と教養を養い、理想の保育者像をいさながら、研鑽に努めている。	保育への関心はあるが、大学生生活において感性や教養を養おうとする姿があまり見られない。	保育への関心がなく、大学生生活において感性や教養を養おうとする姿が見られない。
	社会事象や課題、子どもを取り巻く環境などに関心をもち、実践を常に振り返り、子どもの最善の利益のために新たな方法や手だてを行おうとすることができる。	社会事象や課題、子どもを取り巻く環境などに関心をもち、実践を常に振り返り、子どもの最善の利益のために新たな方法や手だてを行おうとすることができる。	社会事象や課題、子どもを取り巻く環境などにある程度関心をもち、実践を振り返り、子どもの最善の利益のために新たな方法や手だてを行おうとすることができる。	社会事象や課題、子どもを取り巻く環境などに関心はなく実践の振り返りもあまりできないが、子どもとかかわろうとすることは辛うじてできる。	社会事象や課題、子どもを取り巻く環境などに関心がなく、実践の振り返りがないため、子どもとかかわることに自信がもてない。
	社会に貢献する使命感と責任感をもって、様々な課題に対応するため地域と連携し、積極的に行動することができる。	社会に貢献する使命感と責任感をもって、様々な課題に対応するため地域と連携し、積極的に行動することができる。	社会に貢献する使命感と責任感をもって、様々な課題に対応するため地域と連携し行動することができる。	社会に貢献する使命感と責任感があまりなく、地域と連携し行動することに消極的である。	社会に貢献する使命感と責任感がなく、地域と連携し行動することがない。
到達のめやす		100％～80％	79％～60％	59％～20％	19％～

【デザイン美術学科 ルーブリック】

観点	デザイン美術学科の到達指標	レベル 4	レベル 3	レベル 2	レベル 1
知識・理解	美術・デザイン分野を学ぶ基盤となる知識を有することができる。	美術・デザイン分野を学ぶ基盤となる知識を確実に修め、分かりやすく説明ができる。	美術・デザイン分野を学ぶ基盤となる知識をおおよそ修め、説明ができる。	美術・デザイン分野を学ぶ基盤となる知識に不十分さがあり、説明があまりできない。	美術・デザイン分野を学ぶ基盤となる知識に欠け、説明がほとんどできない。
	美術・デザイン分野を学ぶ基盤となる知識への理解を深めることができる。	美術的表現を向上させるために、必要となる基礎的な理解をしっかりと身につけることができる。	美術的表現を向上させるために、必要となる基礎的な理解をおおよそ身につけることができる。	美術的表現を向上させるために、必要となる基礎的な理解をあまり身につけることができない。	美術的表現を向上させるために、必要となる基礎的な理解を身につけることができない。
	美術的表現の理論を修得し、応用することができる。	クリエイターに求められる美術的表現の理論を十分に修得し、応用が確実にできる。	クリエイターに求められる美術的表現の理論をおおよそ修得し、おおよそその応用ができる。	クリエイターに求められる美術的表現の理論をあまり修得できず、応用があまりできない。	クリエイターに求められる美術的表現の理論を修得できず、応用ができない。
思考・判断・表現	美術的表現の必要性を、総合的に考えることができる。	美術的表現の必要性を総合的に考え抜いた上で、コンセプト立案が確実にできる。	美術的表現の必要性を考え抜いた上で、コンセプト立案がおおよそできる。	美術的表現の必要性をあまり考えられず、コンセプト立案があまりできない。	美術的表現の必要性を考えられず、コンセプト立案がほとんどできない。
	美術的表現での、要・不要や是非を判断できる。	総合的な観点から、美術的表現での正しい判断がしっかりできる。	総合的な観点から、美術的表現での正しい判断がおおよそできる。	総合的な観点を持てず、美術的表現での正しい判断があまりできない。	総合的な観点を全く持てず、美術的表現での正しい判断がほとんどできない。
	制作実践において、意義ある美的表現ができる。	美的表現の意義を考慮し、しっかりと表現することができる。	美的表現の意義を考慮し、おおよそ表現することができる。	美的表現の意義を考慮できず、あまり表現ができない。	美的表現の意義をほとんど考慮できず、表現がまったくできない。
技能	美術表現上、必要な技法を修得することができる。	専門分野を学ぶために必要となる学問的技法がしっかりと修得できる。	専門分野を学ぶために必要となる学問的技法がおおよそ修得できる。	専門分野を学ぶために必要となる学問的技法があまり修得できない。	専門分野を学ぶために必要となる学問的技法がほとんど修得できない。
	継続的に研究をし、視覚表現の提案ができる。	継続的に研究をし、客観的かつ伝わりやすい提案が確実にできる。	継続的に研究をし、客観的かつ伝わりやすい提案がおおよそできる。	継続的に研究をし、客観的かつ伝わりやすい提案があまりできない。	客観的かつ伝わりやすい提案ができない。
	クリエイターとして必要なコミュニケーション能力を修得できる。	対話を通じて相手方の意図をくみ取り、適切な提案が確実にできる。	対話を通じて相手方の意図をくみ取り、適切な提案がおおよそできる。	対話を通じて相手方の意図をくみ取り、適切な提案があまりできない。	対話を通じて相手方の意図をくみ取り、適切な提案ができない。
関心・意欲・態度	美的なものに興味や関心を持続けることができる。	美的なものに強い興味や関心を持続け、意欲的に学業に取り組むことができる。	美的なものに興味や関心を持ち、意欲的に学業に取り組むことができる。	美的なものにあまり興味や関心を持てず、意欲的に学業に取り組むことができない。	美的なものにほとんど興味や関心を持てず、学業にほとんど取り組むことができない。
	真摯な気持ちで美術・デザイン分野の研究に、主体的・意欲的に取り組むことができる。	美術・デザイン分野の研究に、主体的・意欲的に、かつ真摯に取り組むことができる。	美術・デザイン分野の研究に、おおよそ主体的・意欲的に、取り組むことができる。	美術・デザイン分野の研究に、あまり主体的・意欲的に取り組むことができない。	美術・デザイン分野の研究に、ほとんど取り組むことができない。
	社会貢献する気持ちを持ち、地域と連携し積極的に行動することができる。	社会貢献への使命感を持ち、地域の人と連携をしながら、積極的・主体的に行動することができる。	社会貢献への使命感を持ち、地域の人と連携をしながら、行動することができる。	社会貢献への使命感を持てず、地域の人と連携があまり取れない。	社会貢献への使命感を持てず、地域の人と連携がほとんど取れない。
到達のめやす		100%～80%	79%～60%	59%～20%	19%～

【音楽総合学科 ルーブリック】

観点	音楽総合学科の到達指標		レベル 4	レベル 3	レベル 2	レベル 1
知識・理解	音楽の基礎的な理論や曲の生まれた背景を理解し、人に音楽を伝えるための知識を修得することができる。	P・Or	幅広い音楽的知識を身につけ、音楽への理解を深めることが確実にできる。	幅広い音楽的知識を身につけ、音楽への理解を深めることがある程度できる。	幅広い音楽的知識を身につけ、音楽への理解を深めることがあまりできない。	幅広い音楽的知識を身につけ、音楽への理解を深めることがほとんどできていない。
		W	楽曲の背景や、基礎理論を学ぶことで、聞く人に伝わる確実が確実にできる。	楽曲の背景や、基礎理論を学ぶことで、聞く人に伝わる演奏がある程度できる。	楽曲の背景や、基礎理論を学ぶことで、聞く人に伝わる演奏を行うことがあまりできない。	楽曲の背景や、基礎理論を学ぶことで、聞く人に伝わる演奏がほとんどできていない。
		R	管楽器の構造、仕組みなど基本的な知識を修得し技術に応用することが確実にできる。	管楽器の構造、仕組みなど基本的な知識を修得し技術に応用することがある程度できる。	管楽器の構造、仕組みなど基本的な知識を修得し技術に応用することがあまりできない。	管楽器の構造、仕組みなど基本的な知識を修得し技術に応用することがほとんどできていない。
		M	対象者の年代に合った曲を提供できその時代背景についての知識を確実に修得している。	対象者の年代に合った曲を提供できその時代背景についての知識をある程度修得している。	対象者の年代に合った曲を提供できその時代背景についての知識の修得が不十分である。	対象者の年代に合った曲を提供できその時代背景についての知識の修得が身についていない。
思考・判断・表現	音楽演奏や教育を行うにあたって必要な理論を適切に判断し、相手の理解に応じて伝え、必要に応じて教えることができる。	P・Or	音楽的素養をもとに思考・判断・想像力をもって表現することが確実にできる。	音楽的素養をもとに思考・判断・想像力をもって表現することがある程度できる。	音楽的素養をもとに思考・判断・想像力をもって表現することが不十分である。	音楽的素養をもとに思考・判断・想像力をもって表現することがほとんどできていない。
		W	聞く人に応じた選曲や、レッスン対象に応じた指導が確実にできる。	聞く人に応じた選曲や、レッスン対象に応じた指導がある程度できる。	聞く人に応じた選曲や、レッスン対象に応じた指導があまりできない。	聞く人に応じた選曲や、レッスン対象に応じた指導がほとんどできていない。
		R	楽器の状態を診断し作業工程を考えることが確実にできる。	楽器の状態を診断し作業工程を考えることがある程度できる。	楽器の状態を診断し作業工程を考えることがあまりできない。	楽器の状態を診断し作業工程を考えることが身についていない。
		M	音楽療法の活動目標について論理的に計画および説明が確実にできる。	音楽療法の活動目標について論理的に計画および説明がある程度できる。	音楽療法の活動目標について論理的に計画および説明が不十分である。	音楽療法の活動目標について論理的に計画および説明がほとんどできていない。
技能	音楽の専門家としての情報収集能力と技術をもち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。	P・Or	音楽活動に必要な専門的技術・コミュニケーション能力を身につけることが確実にできる。	音楽活動に必要な専門的技術・コミュニケーション能力を身につけることがある程度できる。	音楽活動に必要な専門的技術・コミュニケーション能力を身につけることがあまりできていない。	音楽活動に必要な専門的技術・コミュニケーション能力を身につけることがほとんどできていない。
		W	演奏者として必要な情報収集能力やコミュニケーション能力を身につけ、円滑な人間関係を築くことが確実にできる。	演奏者として必要な情報収集能力やコミュニケーション能力を身につけ、円滑な人間関係を築くことがある程度できる。	演奏者として必要な情報収集能力やコミュニケーション能力を身につけ、円滑な人間関係を築くことがあまりできない。	演奏者として必要な情報収集能力やコミュニケーション能力を身につけ、円滑な人間関係を築くことがほとんどできていない。
		R	不良個所を診断し修繕することが確実にできる。	不良個所を診断し修繕することがある程度できる。	不良個所を診断し修繕することがあまりできない。	不良個所を診断し修繕することがほとんどできていない。
		M	治療目的に沿った実践を関連職種と連携して行い記録することが確実にできる。	治療目的に沿った実践を関連職種と連携して行い記録することがある程度できる。	治療目的に沿った実践を関連職種と連携して行い記録することがあまりできていない。	治療目的に沿った実践を関連職種と連携して行い記録することがほとんどできていない。
関心・意欲・態度	常に自己資質の向上をめざし、積極的に音楽を通じて人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。	P・Or	自己の感性と人間性を養い、音楽と人や生活、社会とのつながりに関心を持って意欲的に取り組むことが確実にできる。	自己の感性と人間性を養い、音楽と人や生活、社会とのつながりに関心を持って意欲的に取り組むことがある程度できる。	自己の感性と人間性を養い、音楽と人や生活、社会とのつながりに関心を持って意欲的に取り組むことがあまりできていない。	自己の感性と人間性を養い、音楽と人や生活、社会とのつながりに関心を持って意欲的に取り組むことがほとんどできていない。
		W	地域の音楽文化発展に寄与する自覚を持ち、専攻楽器の演奏技術を真摯に錬磨することが確実にできる。	地域の音楽文化発展に寄与する自覚を持ち、専攻楽器の演奏技術を真摯に錬磨することがある程度できる。	地域の音楽文化発展に寄与する自覚を持ち、専攻楽器の演奏技術を真摯に錬磨することがあまりできない。	地域の音楽文化発展に寄与する自覚を持ち、専攻楽器の演奏技術を真摯に錬磨することがほとんどできていない。
		R	様々な楽器に興味を持ち技術向上に努めることが確実にできる。	様々な楽器に興味を持ち技術向上に努めることがある程度できる。	様々な楽器に興味を持ち技術向上に努めることが不十分である。	様々な楽器に興味を持ち技術向上に努めることが身についていない。
		M	常に学び続ける姿勢を持ち地域福祉に貢献する意欲を持つことが確実にできる。	常に学び続ける姿勢を持ち地域福祉に貢献する意欲を持つことがある程度できる。	常に学び続ける姿勢を持ち地域福祉に貢献する意欲を持つことがあまりできない。	常に学び続ける姿勢を持ち地域福祉に貢献する意欲を持つことがほとんどできていない。
到達のめやす			100%～80%	79%～60%	59%～20%	19%～

注) P・Or=ピアノコース・電子オルガンコース、 W=ウインドアンサンブルコース、 R=管打楽器リペアコース、 M=音楽療法コース

【歯科衛生学科 ルーブリック】

観点	歯科衛生学科の到達指標	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
知識・理解	全身と口腔の健康の関連を医学的に説明ができる。	全身と口腔の健康の関連について医学的に理解がしっかり深まり、十分な知識を身につけて、説明が確実にできる。	全身と口腔の健康の関連について医学的に理解がだいたい深まり、知識をほぼ身につけて、おおよその説明ができる。	全身と口腔の健康の関連について医学的に理解があまり深まらず、知識にやや不十分さがあり、説明があまりできない。	全身と口腔の健康の関連について医学的に理解がほとんど深まらず、知識が不十分であり、説明がほとんどできない。
	口腔疾患を予防し、口腔保健を向上させるために必要となる基本的な知識を身につけることができる。	口腔疾患を予防し、口腔保健を向上させるために必要となる基本的な内容の理解がしっかり深まり、十分な知識を身につけ、説明が確実にできる。	口腔疾患を予防し、口腔保健を向上させるために必要となる基本的な内容の理解がだいたい深まり、知識をほぼ身につけ、おおよその説明ができる。	口腔疾患を予防し、口腔保健を向上させるために必要となる基本的な内容の理解があまり深まらず、知識にやや不十分さがあり、説明があまりできない。	口腔疾患を予防し、口腔保健を向上させるために必要となる基本的な内容の理解がほとんど深まらず、知識が不十分であり、説明がほとんどできない。
	歯科衛生士としての専門性に繋がる教養の基本的知識を修得し応用ができる。	歯科衛生士としての専門性に繋がる教養の基本的知識を十分に修得し、応用が確実にできる。	歯科衛生士としての専門性に繋がる教養の基本的知識をほぼ修得し、おおよその応用ができる。	歯科衛生士としての専門性に繋がる教養の基本的知識にやや不十分さがあり、応用があまりできない。	歯科衛生士としての専門性に繋がる教養の基本的知識が不十分であり、応用がほとんどできない。
思考・判断・表現	歯科保健・医療・福祉の専門分野を学ぶための基本となる総合的な思考力や判断力、表現力の基礎を培うことができる。	歯科保健・医療・福祉の専門分野を学ぶための基本となることについて総合的にしっかり考え、適切な判断や表現をすることができる。	歯科保健・医療・福祉の専門分野を学ぶための基本となることについて総合的に考え、一定の判断や表現をすることができる。	歯科保健・医療・福祉の専門分野を学ぶための基本となることについて考えることはできるが、判断や表現があまりできない。	歯科保健・医療・福祉の専門分野を学ぶための基本となることについてあまり考えられず、判断や表現がほとんどできない。
	人々の健康に関する実際の問題の解決に向けて、科学的な根拠に基づいて論理的に考えることができる。	人々の健康に関する実際の問題の解決に向けて、科学的な根拠に基づいて論理的にしっかりと考えることができる。	人々の健康に関する実際の問題の解決に向けて、科学的な根拠に基づいて論理的にある程度考えることができる。	人々の健康に関する実際の問題の解決に向けて、科学的な根拠に基づいて論理的に考えることがあまりできない。	人々の健康に関する実際の問題の解決に向けて、科学的な根拠に基づいて論理的に考えることがほとんどできない。
	歯科医療場面での正しい判断を、医療倫理の観点から検討することができる。	歯科医療場面での正しい判断を、医療倫理の観点からしっかりと検討することができる。	歯科医療場面での正しい判断を、医療倫理の観点からある程度検討することができる。	歯科医療場面での正しい判断を、医療倫理の観点からあまり検討することができない。	歯科医療場面での正しい判断を、医療倫理の観点からほとんど検討することができない。
技能	口腔の健康やリスクを評価し指導計画を立て、対象者に説明ができる。	口腔の健康やリスクを適切に評価し指導計画を立て、対象者に確実に説明ができる。	口腔の健康やリスクをほぼ適切に評価し指導計画を立て、対象者におおよその説明ができる。	口腔の健康やリスクを適切に評価し指導計画を立てることがあまりできず、対象者への説明が不十分である。	口腔の健康やリスクを適切に評価し指導計画を立てることができず、対象者への説明がほとんどできない。
	口腔疾患の予防のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導が実施できる。	口腔疾患の予防のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導がしっかりと実施できる。	口腔疾患の予防のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導がおおよそ実施できる。	口腔疾患の予防のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導があまり実施できない。	口腔疾患の予防のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導がほとんど実施できない。
	歯科医療におけるチームワークの重要性を理解し他の医療従事者との連携ができ、地域歯科保健の維持・向上のため、地域住民の視点に立ちコミュニケーションがとれる。	歯科医療におけるチームワークの重要性をしっかり理解し、他の医療従事者との連携ができ、地域歯科保健の維持・向上のため、地域住民の視点に立ちコミュニケーションが十分にとれる。	歯科医療におけるチームワークの重要性をだいたい理解し、他の医療従事者との一定の連携ができ、地域歯科保健の維持・向上のため、地域住民の視点に立ちコミュニケーションがある程度とれる。	歯科医療におけるチームワークの重要性をあまり理解できず、他の医療従事者とも一定の連携がとれず、地域歯科保健の維持・向上のため、地域住民の視点に立ちコミュニケーションがあまりとれない。	歯科医療におけるチームワークの重要性がほとんど理解できず、他の医療従事者とも連携が不十分であり、地域歯科保健の維持・向上のため、地域住民の視点に立ちコミュニケーションがほとんどとれない。
関心・意欲・態度	人々の口腔の健康を守ることで、人の心と体を守ることに寄与する歯科衛生士の職責への十分な自覚を持ち、医療人としての自己管理のもとに対象者本位の立場で対応ができる。	人々の口腔の健康を守ることで、人の心と体を守ることに寄与する歯科衛生士の職責への十分な自覚を持ち、医療人としての自己管理のもとに対象者本位の立場で対応がしっかりとできる。	人々の口腔の健康を守ることで、人の心と体を守ることに寄与する歯科衛生士の職責への一定の自覚を持ち、医療人としての自己管理のもとに対象者本位の立場である程度の対応ができる。	人々の口腔の健康を守ることで、人の心と体を守ることに寄与する歯科衛生士の職責への自覚が十分とは言えず、医療人としての自己管理のもとに対象者本位の立場で対応があまりできない。	人々の口腔の健康を守ることで、人の心と体を守ることに寄与する歯科衛生士の職責への自覚が不十分であり、医療人としての自己管理のもとに対象者本位の立場で対応がほとんどできない。
	歯科医療において自ら問題点を探し出し、関心と意欲をもって解決するための能力を培うことができる。	歯科医療において自ら問題点をしっかりと探し出し、関心と意欲をもって解決するための能力を十分に培うことができる。	歯科医療において自ら問題点をほぼ探し出すことができ、関心と意欲をもって解決するための能力をだいたい培うことができる。	歯科医療において自ら問題点をあまり探し出すことができず、関心と意欲をもって解決するための能力も十分に培うことができない。	歯科医療において自ら問題点をほとんど探し出すことができず、関心と意欲をもって解決するための能力が不十分である。
	地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感を持って積極的に行動することができる。	地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感をしっかり持って、積極的に行動することができる。	地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感を一定以上持って、ほぼ積極的に行動することができる。	地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感をあまり持つことができず、十分な行動することができない。	地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感をほとんど持つことができず、行動することができない。
到達のめやす		100%～80%	79%～60%	59%～20%	19%～

【教養科目 ルーブリック】

観点	教養科目の到達指標	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
知識・理解	専門分野を学ぶ基盤となる内容の理解を深め、知識を身につけることができる。	専門学修の基盤となる内容の理解がしっかり深まり、十分な知識を身につけて説明が確実にできる。	専門学修の基盤となる内容の理解がだいたい深まり、知識をほぼ身につけておおよその説明ができる。	専門学修の基盤となる内容の理解があまり深まらず、知識に不十分さがあり説明があまりできない。	専門学修の基盤となる内容の理解がほとんど深まらず、知識が不十分で説明がほとんどできない。
	社会人に求められる社会変化への対応や地域への貢献などに必要な内容の理解を深め、知識を身につけることができる。	社会変化への対応や地域貢献に関する内容の理解がしっかり深まり、十分な知識を身につけて説明が確実にできる。	社会変化への対応や地域貢献に関する内容の理解がだいたい深まり、知識をほぼ身につけておおよその説明ができる。	社会変化への対応や地域貢献に関する内容の理解があまり深まらず、知識に不十分さがあり説明があまりできない。	社会変化への対応や地域貢献に関する内容の理解がほとんど深まらず、知識が不十分で説明がほとんどできない。
思考・判断・表現	人間や文化、社会などに関して現実の問題等に結びつけて考え、適切に判断してこれを表現することの基礎を培うことができる。	学んだ内容を課題と結びつけてしっかり考え、適切な判断や表現をすることができる。	学んだ内容を課題と結びつけて考え、一定の判断や表現をすることができる。	学んだ内容を課題と結びつけてある程度考えることはできるが、判断や表現はあまりできない。	学んだ内容を課題と結びつけてあまり考えられず、判断や表現はほとんどできない。
	専門分野を学ぶための基盤となる総合的な思考力や判断力、表現力の基礎を培うことができる。	専門学修の基盤となることについて総合的にしっかり考え、適切な判断や表現をすることができる。	専門学修の基盤となることについて総合的に考え、一定の判断や表現をすることができる。	専門学修の基盤となることについて考えることはできるが、判断や表現はあまりできない。	専門学修の基盤となることについてあまり考えられず、判断や表現はほとんどできない。
技能	専門分野を学ぶための基盤となる共通の学問的な技能や技術を身につけることができる。	専門分野を学ぶのに役立つ学問的な技能や技術をしっかりと身につけて、活用も確実にできる。	専門分野を学ぶのに役立つ学問的な技能や技術を身につけて、ある程度の活用ができる。	専門分野を学ぶのに役立つ学問的な技能や技術がある程度身につけたが活用はできない。	専門分野を学ぶのに役立つ学問的な技能や技術をほとんど身につけられず、活用は全くできない。
	社会人に必要なコミュニケーション能力や社会生活の基本となる技能について、その基礎を身につけることができる。	社会人に必要な能力や社会生活の基本となる技能をしっかりと理解し、社会での活用が期待できる。	社会人に必要な能力や社会生活の基本となる技能について理解でき、社会でのある程度の活用が期待できる。	社会人に必要な能力や社会生活の基本となる技能についてある程度理解できるが、社会面での活用にはやや努力が必要である。	社会人に必要な能力や社会生活の基本となる技能についてあまり理解できず、社会での活用には十分な努力が必要である。
関心・意欲・態度	学修内容に興味や関心を持ち、見通しをもって主体的、意欲的に取り組むことができる。	強い興味や関心を持って意欲的に授業に参加し、課題などの授業外学修にもしっかりと取り組める。	興味や関心を持って意欲的に授業に参加し、課題などの授業外学修にもだいたい取り組める。	興味や関心をあまり持てず、授業もあまり意欲的に受講できず、授業外学修にはあまり取り組めていない。	興味や関心をほとんど持てず、授業も意欲的に参加できず、授業外学修にほとんど取り組むことができない。
	地域などの社会に関心を持ち、専門分野での学びとともに学んだことを将来役立てて行こうと考えるながら取り組むことができる。	地域などの社会にしっかりと関心を持ち、専門分野での学びを将来役立てることについてしっかりと考えるながら取り組める。	地域などの社会に一定の関心を持ち、専門分野での学びを将来役立てることについてある程度考えるながら取り組める。	地域などの社会のことや、専門分野での学びを将来に役立てることについて、あまり多く考えられない。	地域などの社会のことと、専門分野での学びを将来に役立てることについて、どちらもほとんど考えられない。
到達のめやす		100%～80%	79%～60%	59%～20%	19%～

【キャリア教育 ループリック】

観点	キャリア教育の到達指標	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
知識・理解	職業や就労に関する基本的事項についての理解を深め、知識を身につけることができる。	職業や就労に関する基本的事項についての理解がしっかり深まり、十分な知識を身につけて説明が確実にできる。	職業や就労に関する基本的事項についての理解がだいたい深まり、知識をほぼ身につけておおよその説明ができる。	職業や就労に関する基本的事項についての理解があまり深まらず、知識に不十分さがあり説明はあまりできない。	職業や就労に関する基本的事項についての理解がほとんど深まらず、知識が不十分で説明はほとんどできない。
	キャリアに関連する社会のしくみ、社会人に必要な基礎的な内容の理解を深め、知識を身につけることができる。	社会のしくみ、社会人に必要な基礎的な内容の理解がしっかり深まり、十分な知識を身につけて説明が確実にできる。	社会のしくみ、社会人に必要な基礎的な内容の理解がだいたい深まり、知識をほぼ身につけておおよその説明ができる。	社会のしくみ、社会人に必要な基礎的な内容の理解があまり深まらず、知識に不十分さがあり説明はあまりできない。	社会のしくみ、社会人に必要な基礎的な内容の理解がほとんど深まらず、知識が不十分で説明はほとんどできない。
思考・判断・表現	社会的、職業的自立に向けた将来の構想、自己のキャリアについての適性を見定めたり、必要な能力を認識するなどの思考力、判断力の基礎を培うことができる。	学んだ内容を自己のものとしてしっかり捉えて考え、適切な判断をすることができる。	学んだ内容を自己のものとして捉えて考え、一定の判断をすることができる。	学んだ内容を自己のものとしてある程度捉えて考えることはできるが、判断はあまりできない。	学んだ内容を自己のものとしてあまり捉えて考えられず、判断はほとんどできない。
	将来の進路選択のための課題解決等に関する総合的な思考力や判断力、表現力の基礎を培うことができる。	進路選択のための課題解決等について総合的にしっかり考え、適切な判断や表現をすることができる。	進路選択のための課題解決等について総合的に考え、一定の判断や表現をすることができる。	進路選択のための課題解決等について考えることはできるが、判断や表現はあまりできない。	進路選択のための課題解決等についてあまり考えられず、判断や表現はほとんどできない。
技能	社会において活用できる専門的な知識や技術などの基礎的な技能を身につけることができる。	専門的な知識や技術などの基礎的な技能をしっかりと身につけて、活用も確実にできる。	専門的な知識や技術などの基礎的な技能を身につけて、ある程度の活用ができる。	専門的な知識や技術などの基礎的な技能をある程度身につけているが活用はできない。	専門的な知識や技術などの基礎的な技能をほとんど身につけることができず、活用はまったくできない。
	キャリアの修得や進路選択のために必要な計画の立案に取り組むことができる。	自己の将来に強い興味や関心を持ち、意欲的にしっかり取り組むことができる。	自己の将来に興味や関心を持ち、ある程度意欲的に取り組むことができる。	自己の将来に興味や関心はあまり持てず、意欲的に取り組むことができない。	自己の将来に強い興味や関心を持てず、取り組むことができない。
	協働の基礎となる集団におけるマナーやコミュニケーション等に関する基礎的な技能を身につけることができる。	マナーやコミュニケーション等の技能をしっかりと理解し、確実に身につけることができる。	マナーやコミュニケーション等の技能をある程度理解し、身につけることができる。	マナーやコミュニケーション等の技能をある程度理解できるが、身につけるまでにはやや努力が必要である。	マナーやコミュニケーション等の技能をあまり理解できず、身につけるまでには十分な努力が必要である。
関心・意欲・態度	社会の中で自己の役割を果たすことに興味や関心を持ち、見通しをもって主体的、意欲的に取り組むことができる。	強い興味や関心を持って意欲的に授業に参加し、学修にしっかり取り組むことができる。	興味や関心を持って意欲的に授業に参加し、学修にもだいたい取り組むことができる。	興味や関心をあまり持てず、授業も意欲的に参加できず、学修にもあまり取り組むことができない。	興味や関心をほとんど持てず、授業も意欲的に参加できず、学修にもほとんど取り組むことができない。
	キャリアを基本とした自己認識と将来設計に関心を持ち、自己の将来の姿を描くことに取り組むことができる。	自己認識と将来設計に強い関心を持ち、意欲的に将来の姿を描くことに取り組むことができる。	自己認識と将来設計に関心を持ち、ある程度将来の姿を描くことに取り組むことができる。	自己認識と将来設計にあまり関心を持てず、将来の姿を描くことにはあまり取り組むことができない。	自己認識と将来設計にほとんど関心を持てず、将来の姿を描くことにはほとんど取り組むことができない。
	地域社会に関心を持ち、社会人として必要な行動様式を身につけていこうと考えながら取り組むことができる。	地域社会に強い関心を持ち、学修内容を将来役立てようと考えながらしっかり取り組むことができる。	地域社会に関心を持ち、学修内容を将来役立てようと考えながらだいたい取り組むことができる。	地域社会に関心をあまり持てず、学修内容を将来役立てようとは考えられず、取り組むことはあまりできない。	地域社会にほとんど関心を持てず、学修内容を将来役立てようとは考えられず、取り組むことはほとんどできない。
到達のめやす		100%～80%	79%～60%	59%～20%	19%～

1. 目的

この方針は、卒業認定・学位授与の全学方針（全学ディプロマ・ポリシー（以下「DP」という。）、教育課程編成・実施の全学方針（全学カリキュラム・ポリシー（以下「CP」という。）及び入学者受入れの全学方針（全学アドミッション・ポリシー（以下「AP」という。）にそって本学が実施した教育活動による学生の学修成果等について、これを評価し検証するための基本事項、実施内容、具体的手立て等を定め、これによって教育の質保証と学生の学びの向上を図るとともに、適切な教育改善を推進していくことを目的とする。

2. 学修成果

本学では、全学及び各学科のAPに基づいて実施した各種入学試験の結果を入学時に有する学ぶ力ととらえ、その基盤の上に全学及び各学科のCPによって編成された教育課程を履修することで、学生が確実に身につけ達成することを期待されているものを学修成果と考えている。学修成果の具体的内容は、全学及び各学科のDPに基づいて示される知識・理解、思考・判断・表現、技能、関心・意欲・態度の各観点からなる到達指標として示される。

学修成果は、教養科目及び専門科目について規定の単位を取得することはもちろん、他の様々な評価・検証の手立てによって検証され、一定の質的水準に達するようにしなければならない。本学では学生の学修成果が目標まで高められたことをもって教育効果としているが、学修成果を高めるためには、必要に応じて教育効果についても検証する必要がある。こうしたことを踏まえて、適切な方針のもとで確実に学修成果を評価・検証し、必要に応じてその結果から教育効果の検討も行いつつ、全学もしくは各学科・センター、各委員会、事務局で組織的、計画的な教育改善に取り組んでいくものとする。

3. 基本事項

(1) 評価・検証にあたって

学修成果等の評価・検証は、次のことを踏まえて計画、実施、結果の活用にあたるものとする。

- ① 本学における学びによって、学生が確実に身につけ達成している状況を明らかにするものであること。
- ② 学生の社会的職業的自立に向けた指導、就業力育成、就職・キャリア支援及び学生生活支援等の在り方も明らかにして、適切な学生支援に活用できるものであること。
- ③ 本学における教育・研究・社会活動全般の状況を把握し、DPの検証とともに諸方針並びに組織及び運営の見直しに活用でき、あわせて社会への説明責任を果たす際の資料となるものであること。

(2) 教育の方針・計画、卒業、授業、単位認定等に関する運用の基本や定義

事項	運用の基本や定義	根拠
①ガバナンス及びマネジメントの基本	学校法人大垣総合学園の設置する経営会議の方針に基づいて、学長の下に次のとおり計画・実施・検証・改善にあたる。 ア. 計画：本学経営委員会の基本的な方針に基づいて学科長会議が方針と計画の基本を定め、実施する部署が計画を立案する。 イ. 実施：学科・センター、各委員会及び事務局が実施にあたる。 ウ. 検証：実施部署が基本的検証を、学科長会議が総合的検証を、自己点検・評価委員会が全体的検証を行い、学長に報告する。 エ. 改善：実施部署が基本的改善事項を、学科長会議が総合的改善事項を検討して自己点検・評価委員会に報告し、活用する。	○学校法人 経営会議規則 ○学校法人 経営委員会規程 ○学校法人 組織・職務権限規程 ○学科長会議規程 ○自己点検・評価委員会規程 ○教学マネジメントに関する要項
②教育の基本方針	建学の精神、教育理念、設置目的、全学及び各学科のDP・AP・CP、各学科の教育目標及び到達指標、教養教育及びキャリア教育の方針、学修成果等の検証に関するプラン（アセスメントプラン）等を「教育に関する基本方針」として明示し、公表する。	○教学マネジメントに関する要項第3
③ 教育課程と計画	ア. 教育課程に関する編成及び実施、検討、改善等のカリキュラム・マネジメントについては、専門教育は各学科、教養教育は総合教育センター、キャリア教育は学生支援委員会が計画し、教務委員会で検討の上、学科長会議の審議を経て、学長が決定する。 イ. DP及び到達指標との関係性を示した「カリキュラム・マップ」と、各授業科目の体系性及び順序性を示した「カリキュラム・ツリー」を学科及び総合教育センターは作成して公表する。 ウ. すべての授業は、効果的な教育の実践を図るため、総合的な授業計画であるシラバスを要領に基	○教学マネジメントに関する要項第5、第6 ○シラバス作成要領

	づいて作成し、公表する。	
④ 卒業要件	修業年限（幼児教育学科、歯科衛生学科は3年、デザイン美術学科、音楽総合学科は2年）以上在学し、「学位授与の方針」にもと、学則に定める授業科目及び単位数（幼児教育学科95単位、デザイン美術学科65単位、音楽総合学科65単位、歯科衛生学科97単位）以上を修得した者について卒業を認定し、学位を授与する。	○学則 第35条、第36条 ○履修に関する要項 第3
⑤ 授業の方法	授業の方法は、講義、演習、実習又は実技のいずれか、又はこれらの併用により行う。	○学則 第28条
⑥ 単位の計算方法	ア．各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容で構成し、次の基準により1単位とする。 （ア）講義は、15時間の授業 （イ）演習は、30時間の授業 （ウ）実習及び実技は、45時間の授業 （エ）講義、演習、実習又は実技のうち2以上の方法を併用して行う授業は、組み合わせに応じて定める時間の授業 （オ）卒業研究、卒業制作等の授業は、別に定める時間の授業 （カ）教育効果等から必要な授業科目は、別に定める時間の授業 イ．授業時間は1時限90分の授業を2時間と見なす。	○学則 第29条 ○教務規程 第14条 ○履修に関する要項 第4
⑦ 単位の認定及び授与	ア．授業科目を履修し、成績の評価で合格点を得た者には、所定の単位を与える。 イ．原則として開講時数の3分の1以上授業を欠席した者及び授業料等の未納者の単位は認めない。	○学則 第30条 ○教務規程 第15条 ○履修に関する要項 第14
⑧ 成績の評価基準等	ア．成績の評価は、秀（AA）：100－90点、優（A）：89－80点、良（B）：79－70点、可（C）：69－60点、不可（D）：59－0点の5段階とし、可（C）以上を合格とする（100点満点とし、60点以上を合格、それに満たない者は不合格）。 イ．成績の評価は、課題への対応状況、授業への取り組み状況、授業期間・これ以外の期間又は定期試験期間中の筆記試験、実技試験又は口述試験、レポート、論文、作品等提出物の内容からシラバスに明記された到達目標及び基準に基づいて決定する。	○学則 第31条 ○教務規程 第21条 ○履修に関する要項 第15、第16 ○シラバス作成要領 ○成績評価実施要領
⑨ 観点別評価	成績評価にあたっては、学生の学修成果を多面的にとらえるため、「教育に関する基本方針」の到達指標に基づく観点別の評価もあわせて行うものとし、観点及び基準はシラバスに明記する。	○履修に関する要項 第17 ○成績評価実施要領 ○シラバス作成要領
⑩ 履修単位数の上限	各学期に履修できる単位数の上限は25単位とし、成績等により緩和する条件を定める。	○履修に関する要項 第6
⑪ 定期試験等	ア．定期試験は、原則として定期試験期間において実施し、筆記試験、実技試験、レポートその他の方法による。 イ．追試験及び再試験を設定し、要件に応じて実施する。	○教務規程 第16条、第17条、第18条 ○試験実施要領
⑫ GPA（グレード・ポイント・アベレージ）	ア．履修科目で算出したGP（グレード・ポイント：（得点－55）÷10、60点未満は0）に当該科目の単位数を乗じた値を履修全科目で総計し、それを履修総単位数で除して算出した平均値。 イ．GPAは、受講単位の制限、修学への助言や指導、特定科目の履修や卒業の制限、退学勧告、表彰や奨学金等の選定基準等に活用する。	○履修に関する要項 第18 ○GPA制度に関する要項 第2、第3、第9
⑬ GPC（グレード・ポイント・クラス・アベレージ）	各履修者の成績得点からそれに対応するGPを算出し、これらの合計を当該授業科目の履修登録者数で除して得られる数値をいい、すべての授業科目における目標値を2.0以上とする。	○GPCに関する要項 第3、第4

4. 実施

A Pに適合することの判定、D P・到達指標・到達目標の各レベルにおける達成、諸方針や諸活動・入学試験・教育課程等の適切性に関する検討は、以下の内容について総合的に評価・検証するものとする。

- (1) A Pに適合する人材であることの判定
 - ① 入学試験
 - ア. 入学試験結果の状況
 - イ. 調査書等に記載された状況（入学前の学習状況）
 - ② 入学前教育
 - ア. 入学前教育の取組状況
 - イ. 入学時テスト等の状況
- (2) D Pの達成
 - ① 全学レベル（全学D Pが達成されたかどうか）
 - ア. 単位取得成績の観点別達成の総合的な状況
 - イ. 退学率・休学率に関する総合的な状況
 - ウ. 就職率・進学率（専門関連分野への就業率・進学率及び就業地域の状況を含む）の総合的な状況
 - エ. 資格・免許等の取得に関する総合的な状況
 - オ. 短大生調査（短期大学基準協会が実施）・学修行動等調査、授業評価等の総合的な結果
 - カ. 全学D Pに関する学生の自己評価の総合的な結果
 - ② 学科レベル（学科D P及び到達指標が達成されたかどうか）
 - ア. 卒業要件の達成に関する状況（単位取得の状況、G P A）
 - イ. 学年ごとの成績状況（単位取得状況、成績分布、G P A、G P C、単位取得成績の観点別達成状況）
 - ウ. 専門分野に関連する資格・免許等の取得に関する状況（国家試験の合格状況を含む）
 - エ. 専門関連分野への就業率・進学率の状況
 - オ. 留年・退学・休学の状況
 - カ. 短大生調査・学修行動等調査、授業評価等の結果
 - キ. 学科D P及び到達指標に関する学生の自己評価の結果
 - ③ 授業レベル（シラバスに示すD Pと一貫性をもつ授業の到達目標が達成され、単位認定されたかどうか）
 - ア. 単位認定とその成績
 - イ. 試験・制作物・提出物等の結果
 - ウ. 実験・実技・実習等の結果
 - エ. 出席や学修活動に対する取組の状況
 - オ. 素点及び観点別評価の結果
 - カ. 授業評価の結果
 - キ. 到達目標に関する学生の自己評価の結果
 - ク. 科目のG P C
- (3) 適切性の検討
 - ① 諸方針及び諸活動等
 - 全学レベルの学修成果の状況、結果及び報告等に基づき、各学科・センター、教務委員会、学生支援委員会等の検討の上に、自己点検・評価委員会並びに学科長会議が審議して、学長に報告する。
 - ② A Pに基づく入学試験
 - 全学・学科レベルの学修成果など入学後の状況等に基づき、入学試験管理委員会が審議して学長に報告する。
 - ③ C Pによる教育課程（コース設定等を含む）
 - 全学・学科レベルの学修成果やG P A、G P C等に基づき、教務委員会や学科が審議して学長に報告する。

5. 具体的手立て及び基準

学修成果等の評価・検証のために用いる主な具体的手立てと最低基準については、次のとおりとする。

手立て	時期	頻度	対象	内容	手法	担当	最低基準
入学試験	10月～3月	年6回	入学志願者	A P 適合の判定	試験、面接、他	B、H	A P 基準以上
新入生アンケート	4月	年1回	新入生	入学動機等	Web 入力	H、D	80%以上志望
基礎力リサーチ	4月、10月	年2回	1年次生	基礎学力など	質問紙	C、H	
学校基本調査	5月	年1回	全学生	学籍等の調査報告	文科省に報告	総務課、H	定員 90%以上
学生による授業評価	期末	年2回	全学生	授業への評価	Web 入力	C、H	3.0 以上
授業科目の成績評価	期末	年2回	全学生	授業の学修状況	試験、作品、他	E、H	得点 60%以上
到達目標自己評価	11～12月	年1回	全学生	学修態度	Web 入力	C、H、D	目標の 80%以上
G P A の状況	期末	年2回	全学生	総合成績評価値	算出	H、学科	2.0 以上
G P A 状況(下位4分の1)	期末	年2回	全学生	学科成績分布状況	算出(学科・学年)	H、G、D	2.5 以上
G P C の状況	期末	年2回	全授業科目	成績評価の状況	算出	H、G、D	全科目 2.0 以上
短大生調査(基準協会)	11～12月	年1回	全学生	生活・環境・学び	質問紙(外部)	H、F、D	目標の 80%以上
学修行動等調査	11～12月	年1回	全学生	学修状況と成果	Web 入力	H、C、D	目標の 80%以上
観点別達成総合評価	3月	年1回	全学生	修得科目観点別状況	算出	H、G、D	80%以上到達
満足度調査	卒業時	年1回	卒業生・保護者	本学教育への満足度	質問紙	F、H、D	80%以上満足
雇用者アンケート	11月	年1回	既卒生雇用者	就業状況や要望	質問紙、Web 入力	F、H	80%以上満足
卒業生のキャリア調査	11月	年1回	既卒者	就業状況や学びの活用	Web 入力	F、H	80%以上満足
学内保育総合試験	11～12月	年1回	幼教2年生	専門分野学修状況	筆記・実技試験	該当学科	得点 60%以上
卒業展示会／演奏会	2,3月	年1回	卒業予定者	専門分野学修状況	発表会	該当学科	目標 80%以上
歯科衛生士国家試験	3月	年1回	卒業予定者	専門分野学修状況	外部筆記試験	該当学科	90%以上合格
卒業・資格等取得調査	3月	年1回	卒業生	卒業・資格取得状況	調査結果集約	H、G	目標の 80%以上
卒業生就職状況調査	3月	年1回	卒業生	就職状況(業種地域)	調査結果集約	H	目標の 80%以上
各年度自己点検・評価	3月	年1回	本学全体	学校運営の全体状況	点検結果集約	A	到達 80%以上

担当記号（A：自己点検・評価委員会、B：入学試験管理委員会、C：総合教育センター、D：I R センター、E：科目担当教員、F：学生支援委員会、G：教務委員会、H：学務課）

6. 結果の取扱い

評価や検証等に係る結果は、教学マネジメントに関する要項等に基づいて適切に処理し、特に個人情報の取扱いに関しては遺漏のないよう十分に留意するものとする。原則として、計画・実施担当部署は、結果に関する報告書を学長に提出するとともに、必要に応じて A L O（アクレディテーション・リエゾン・オフィサー：認証評価連絡調整責任者）にも報告する。さらに、学生や必要なステークホルダー（関係者）に対しても、適切な形式で結果を公開するよう努めるものとする。

本学の教育活動全体の改善を図るため、自己点検・評価委員会は結果に関する報告書に基づいて検討、分析、審議を行うとともに、学科長会議でも検討し、改善のための措置や取組を関連部署に提起するとともに、連携協定を結ぶ地方公共団体や公的団体等の外部関係者にも必要に応じて広く意見を求めていくよう努める。また、結果に係るデータ等は求めに応じて I R（インスティテューショナル・リサーチ）センターに送付し、I R センターは必要に応じて分析を加えた報告書を作成して学長に提出するものとする。